



「業種別支援の着眼点」の紹介

事業者の皆さまへ

金融庁は、各金融機関に、融資先(事業者等)との経営課題の認識共有とともに、課題に応じた支援策の検討・実施を求めています。

あわせて、金融機関の中堅・若手等の現場職員の方々向けに、融資先(事業者等)の経営課題への支援を、円滑かつ効果的に着手できるよう、支援ノウハウや業種ごとのポイントを整理した「**業種別支援の着眼点**」を作成、公表しております。

この「**業種別支援の着眼点**」には、事業者の皆さまにも、**ご参考として頂ける情報**が掲載されておりますので、ご案内させていただきます。

掲載サイト (金融庁ホームページ内)

<https://www.fsa.go.jp/policy/chuukai/gyousyubetu.html>



資料は、①**コンセプト・ユースケース**、②**共通編**、③**建設業**、④**飲食業**、⑤**小売業**、⑥**卸売業**、⑦**運送業**、⑧**製造業**、⑨**サービス業**、⑩**医療業**で構成されています。

「業種別支援の着眼点」の**活用事例等の掲載**や**事業者インタビュー動画**などのコンテンツもございます。

最後に

「業種別支援の着眼点」は、金融機関の現場職員の方々向けに作成されたものですが、事業者の皆さまにも、経営にあたって、**ご参考としてご活用**いただければ幸いです。

全業種共通 中小企業の目利き (決算資料編) その2

ここでは、定額面でも中小企業の目利きをする際、全業種に共通するポイントをとめます。精緻な財務分析も大切なことですが、度が過ぎると中小企業を「数字ありき」の固定概念で判断することにつながります。現場で企業を判断する際の「初めの一歩」と考えていただければよいと思います。

2 **ROA (総資産利益率)**

- スタンダードな経営分析指標の一つ
- 3～5年程度の決算等を参考に、ROA分解式で傾向をつかむ
- その業種のトレンドに沿った企業か? 先行する企業か?
- 当該企業のROAの特徴は、企業の事業性か? 弊項を承認しているか?

$$ROA = \frac{\text{売上高当期純利益率}}{\text{売上高}} \times \frac{\text{総資本(産)回転率}}{\text{総資産(自己資本+負債)}}$$

～ 中小企業の財務的活動の基本的な流れ ～

ROAは、企業活動の財務的基本的な流れである「資金の調達と調達資金の運用効率」を測る経営指標です。上記のとおりROAは売上高当期純利益率と総資本(産)回転率に分けることができます。

左図のとおり、企業は外部から借入または出資の形で「資金を調達」し、それを元手に事業を営むのに必要な「資産を調達」して、原価や費用をかけて売上を獲得し、主に最終利益を自己資本に蓄積しています。

ここでポイントになるのは、売上高当期純利益率と総資本(産)回転率のどちらを軸に、調達と運用を繰り返して利益を創出しているかという点です。

一般的な業種傾向を理解した上で、企業がどのような事業活動をしているかについての「モニタリング」として利用することができます。

『業種別支援の着眼点』 ページ例